

## 市民活動センターの今後のあり方について

---

### (1) 市民活動の拠点としてのあり方

#### 【例】

- ・ NPOのニーズの見極めとそれをふまえた支援策（講座、情報発信等）
- ・ 市民活動の裾野を広げる取組  
（新たな担い手〔団塊の世代、現役サラリーマン層、学生等〕を増やす仕掛け）

### (2) 多様なセクターの協働の拠点としてのあり方

#### 【例】

- ・ 行政、地縁組織、事業者、大学等の多様なセクターとの協働促進  
（積極的なアウトリーチ）
- ・ 立地（商業施設内）を活かした事業者との連携強化 等

### (3) 今後のまちの変化に対してセンターができること

#### 【例】

- ・ 北大阪急行延伸（平成32年度開業予定）に伴うまちの変化を見据えた取組  
（交流人口の増加→新たなコミュニティの誕生、ソーシャルビジネスの可能性等）
- ・ 市民サービスの拠点としての機能
- ・ 子育てや生涯学習の機能